

STAY AND HERE YOUR LOVE'S COMING"といふ
永々しい書題の EDWIN ABBEY 氏の繪は、おつとりし
た處に言ひ知れぬ味がある、全體が青白い着色のうちに遠く桃
の花の紅を見せたところなど何となく懐かしい繪である、**TH**
OMUS FAED 氏の **IN TIME OF WAR** は

"O Logan, sweetly didst thou glide,
that day I was my Wilkes bride!

And years sinsyae has ber me run,

Like Logan to the summer Sun.

But two thy fhomey banks appear.

Like dumlie winter dark and deair,

While my dear lod mann face his faes,

Far, Far, frae me, and Logan fraes —

といふパランスの詩からとつたので趣は充分に現はれてゐる。

"AND WENDID YOU LAST SEE YOUR FATHER
R?"と題する W. F. YEAMES 氏の大作は忠實な描き方で

よく其情を寫し出してある "FROM GREEN TO GOLD"
といふ氣の利いた書題の畫は YEND KING 氏の作で、其

名の示す通り小川のはとりの初秋を寫したもので、和らかな手
際のよい繪である。以上は皆油繪であるが、水彩畫は百余點あ
つて、さすがに英國は水彩の本場と言はるゝだけに見耐へのあ
るものが多い、聞く處によればロンドンでも一寸これだけ澤山
の水彩畫を一堂のうちに見ることは出来ぬとの事である、大な

るもの小なるもの密なるもの粗なるもの結構布置をまぐぐで、
これを見た時の嬉しさは丁度空腹の時に澤山の御馳走を目の前
にさしつけられたやうであつた、そのうちで少しく飛抜けた作
を擧げて見れば、GEORGE COCKRAM 氏の海岸、これは横
長い大畫で、曾てローヤル、アカデミーのカタログでお馴染の
あるもの、雲といひ水と云ひよくもかく迄描き出したものかな
と暫時は我を忘れてしまった。ROBT. TALBOT KILLY
氏の "THE PURSUIT" は水極めてよく、H. WINDSOR
ERY 氏の景色は最も美はしく思はれた、ロンドンへ急ぐため
此貴重なる美術館を、僅か二回より訪ふことを得なかつたのは
實に残念である。(リヴァプールにて)

△ △ △

漸くにして榆林にたどりつく、なだらかなる山に、細く長いひ
よる／＼とした幾千本、幹は白きもの塗りたらんと思はるゝ
まで美しく、極めて細くこまやかなる末枝の交れるは、離れて
見る眼に烟れるが如し、蕭條たる空林の晩坐るに吟心を怡ばし
む。

白榆や冬構へせば誰と居ん

榆山や聳に來もせば炭焼かん

(二月二日紀行の一節、畔川生)

* * * * *